

巻頭言

「足利大学看護学部の将来」

足利大学看護学部 学部長 山門 實



「光陰矢のごとし」と申しますが、湯島天神の昇殿参拝も本年度で3度目となりました。本年度のおみくじも、くしくも「東風吹かば 匂いおこせよ梅の花 主なしとて春な忘れそ」と昨年と同様の大吉でした。おみくじの学業についての記載には「人にたよらず落着いてなせば可」でした。しかしながら、最後はやはり神頼みです。

看護学部（以下、本学部）の外部評価は、国家試験合格率、就職率、偏差値となりますが、本学部として真に重要な評価は、就職先での本学部卒業生の臨床評価と考えています。これこそが本学部の目指す看護専門職が育成できているか否かの評価となるからです。そのエビデンスの構築のため、本年度は卒業生の就職先に無理をお願いして「卒業生アンケート」を実施させていただきました。本学部は「コアとなる看護実践能力」を教育基盤とし、5つのディプロマポリシー（DP）に基づき学位授与を行っていることから、アンケートでは看護学士課程で修得しておくべき項目について入職時の達成状況を調査させていただきました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

このアンケート結果を現状のエビデンスとして、これからの本学部はいかに発展すればよいでしょうか。教育については、本校の建学の精神「和を以て貴しと為す」に基づき、もう一度、倫理観とともに論理的思考能力をしっかりと身につけること、社会人としての自己管理能力を身につけること、そして知識・技能を看護実践に結びつけることができることと考えます。本学部教員がこの教育方針に基づいた教育をして、より良い看護専門職の育成が達成できると考えます。

研究については、看護実践教育研究センター（以下、本センター）の役割が重要となります。本センターの概要は本学部のホームページに記載がありますが、その目的は、ことに、看護学と工学の研究成果を融合した、質の高い看護実践の提供に向けた支援を行う

ことです。本センターが進化することで、本学部が足利市を中心とする両毛地区の医療の質の向上に貢献できることを切に望みます。

ところで、私が本学部の創立に参加したのは、「わが国の医療を看護から変革する。」との夢を抱いていたからです。また、大学としては、教育と研究の両輪で社会が必要とする人材育成と研究活動を行い、地域立大学として、Center of Community として自由な研究の成果を通じて社会に貢献するものと考えていました。教育においては、教員が「何を教えたか」より、学生が「何を学び、何を身に付けることができたのか」が重要であり、この学生が自ら学んで身につけた知識・技術・態度を社会で活用できる人材を育成することと考えていました。「自学自修」でした。また、看護専門職、specialist として生涯学び続ける姿勢を醸成すること specialist autonomy も必要と考えていました。

「夢中で我慢づよく、そして潔く」です。そして、本学部が“井の中の蛙大海をしらず”とならず、すくなくとも“されど空の蒼さを知る”となって、本学部が看護大学としてさらに発展することを切に望みます。

